やさしむらの
ふしぎなつる
文・絵　土屋富士夫

やさしむらの ふしぎなつる

文・絵 土屋富士夫

女子パウロ会

やさしむらの　りすさんが
ものおとに　きづいて　ドアを　あけました。
「まあ、だれかと　おもったら！
いらっしゃい」

そこへ　ぶたさんが　いきを　きらして　やって　きました。
「りすさーん、おどろき　おどろき！」

「この　つるね、なんと、
うちから　ずーっと　つづいてるんだよ。
ぼく　いま　しらべて　きたんだ」
「ほんと？　すごーい。
いったい　どこまで　つづいて　いるのかしら」

その　ころ。
せんたくを　して　いた　くまさんが
つるを　みつけて　いいました。
「これ、ものほしに　ちょうど　いい。
ちょっと　つかわせて　もらうよ」

そこへ　ぶたさんと　りすさんが　やって　きました。
「くまさん、この　つる　ぼくの　うちから
ずーっと　ずーっと　つづいてるんだよ」
「わたしの　うちにも　あそびに　きて　くれたの」
「へえー、ふしぎな　つるだね。
いったい　なんの　つるだろう」

つるを　たどって　いくと
きつねさんの　おうちへ　つきました。
「みんな、ちょうど　いい　ところへ　きて　くれた。
この　いたずらもの　きるの　てつだってよ」
「ちょっと　まって、きつねさん。この　つるね……」